

自営農家における仕事と家庭の関連と精神的健康

環境情報学部 3 年 清水小春

研究目的

近年農家におけるワーク・ファミリー・スピルオーバーに関して関心が高まっている。農家の精神的健康に関する実証研究は日本国外では多く進められているのに対して、国内での実証研究はいまだ十分ではない。そこで本研究では、日本の農家へ質問紙調査およびインタビュー調査を行い、農家特有のやりがいやストレスの原因となる要因を特定し、それらがどのように仕事と家庭の両立を行う上で心理的影響を与えているかを明らかにする。

研究方法・内容

自治体職員または農協職員に研究説明書を用いて口頭で説明し、研究協力同意書を用いて研究協力の同意を得る。自治体職員または農協職員の協力を得て、対象となる果樹または稲の組合長と交渉し、会合にて参加同意書、志望理由書等を含む配布物を用いた、研究概要の説明と調査依頼を行う。研究参加に同意した方には、研究参加同意書の郵送又はフォームの送信にて同意をいただいた後に、事前に回答する①質問紙調査と 30 分程度の②インタビュー調査を行った。

① 質問紙調査

調査項目は、基本属性（性別、年齢、子どもの数、農業継続年数、副業の有無（有の場合はその職業について））、Utrecht Work Engagement Scale（ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度）（Shimazu et al., 2008）、Japanese version of the Survey Work–Home Interaction（日本語版ワーク・ライフ・バランス尺度）（Shimada et al., 2018 ; Geurts et al., 2005）、WHO-5 精神的健康状態表（Awata et al., 2007 ; Staehr-Johansen, 1998）とした。

② インタビュー調査

半構造化インタビューとし、以下の質問を含む 30 分のインタビューを行なった。

- ・仕事での出来事が家庭に与えるポジティブまたはネガティブな影響の有無とその内容
- ・仕事で発生したストレスが家庭に与える影響について
- ・家庭での出来事が仕事に与えるポジティブまたはネガティブな影響の有無とその内容
- ・家庭で発生したストレスが仕事に与える影響について
- ・仕事と家庭の両立を行う上での工夫

研究進捗

フィールドワーク実施日	実施場所	実施内容	参加人数 (名)
11月5,7,22,30日	A市組合, 農協会議室	研究説明	28
12月2,4,5,10日	インタビュー会場	インタビュー	8
1月7,8日	インタビュー会場	インタビュー	3
1月14日	A市組合会合室	研究説明	2
1月18日	インタビュー会場	インタビュー	2
1月23,25日	C市組合会合	研究説明	4
3月2日	A市農協会議室	進捗共有	1
3月11日	インタビュー会場	インタビュー	2

計 15 名の質問紙調査及びインタビュー調査を行うことができた。

考察と展望

今回はインタビューを行った中でも D さん（40 代，男性）E さん（60 代，男性）F さん（30 代，男性）の印象的な回答から考察を行った。D さんは子育て中で自ら農業を志望し就いた背景から，顧客とのコミュニケーションの中でのやりがいやストレスに関する回答が目立ち，仕事でのストレスが家庭へ流出している様子が見られた。E さんは以前働いていた会社を定年で退職して農業をしており，子育ても終えていることから，仕事や家庭でのストレスはあまり見られなかった。F さんは幼い子供を 2 人育てており，常に子どもの未来のために仕事をしているという話が多く，家庭での出来事が仕事へポジティブな影響を与えているような話が多く印象的であった。

本調査ではさまざまな年代の方へ調査を行うことができ，年代における特徴を見つけることができた。また質問紙調査でも農家ならではの傾向や年代によっての特徴が見られたため，引き続き分析を行い詳細な考察を行いたい。インタビュー調査を逐語録として記録したのち，テーマティックアナリシスのハイブリットアプローチを分析手法として採用し，コーディングを行うことで更なる分析を行いたい。

謝辞

本調査を行うにあたり研究に協力してくださった自治体職員の方をはじめとする研究参加者の皆様，調査にあたり費用のご支援をいただきました慶應 SFC 学会様に深く感謝申し上げます。